

平成24年
11月20日発行

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。



現在の浜松町駅の写真(世界貿易センタービルと文化放送本社をつなぐ歩道橋の上から)



大正3年(1914)当時の浜松町停車場 港郷土資料館提供

第25号の表紙は
浜松町・海岸 エリアの
話題です

海と空の玄関口として、1日約31万人が利用する！ 開業103年を迎えた浜松町駅

JR浜松町駅は明治42年(1909)12月16日、国鉄東海道本線品川駅～鳥森駅(現在の新橋駅)間開通と同時に開業しました。開業当時は海岸が駅近くまで迫り、潮干狩りや釣り舟などの行楽客、また、増上寺や芝大神宮への参拝者でにぎわいを見せていました。

現在は羽田空港へのアクセスである東京モノレールへの乗換駅であるとともに、伊豆諸島への航路がある竹芝ふ頭への玄関口として位置付けられ、通勤客を中心に1日約31万人が利用しています。

外国人利用も多い浜松町駅では、駅員が作成した「ONE POINT シャベリオー

ネ」と題した英語案内文や、お客さまサービスをテーマにした俳句「今日の一句」を毎朝全員で読み上げて、利用者へのサービス向上の意識を高めています。

今年で開業103年を迎えた浜松町駅。これからも海と空の玄関口として、利用者に安全とホスピタリティを提供し続けます。



JR浜松町駅の高橋哲郎駅長に構内を案内していただきました



平成24年10月

還暦祝いの赤いちゃんちゃんこを着た小便小僧

駅を見守り続けて60年

3・4番線ホームの田町寄りにあるこの小便小僧の像は、昭和27年(1952)10月14日に鉄道開通80周年を記念し、当時、国鉄嘱託歯科医であった小林光さんから寄贈されました。

当初は陶器製でしたが、昭和30年(1955)の山手線・京浜東北線の分離運転に伴う新ホーム開設の際に、現在のブロンズ製の小便小僧が寄贈されました。

10月に60歳の還暦を迎えた小便小僧は、これからも浜松町駅のシンボルとして愛され続けることでしょう。

浜松町駅の小便小僧のプロフィール

生年月日：昭和27年10月14日
身長：43cm 頭囲：24.2cm
首まわり：19.5cm 肩幅：18cm

「手芸グループ あじさい」が昭和61年(1986)11月以降、毎月欠かさずに手作りした小便小僧の服を着せ替えています。

浜松町駅にもう1つ像があることをご存じですか？

小便小僧の像が印象的な浜松町駅ですが、実はもう一体の像があります。その銅像「碧の調べ」は長い間東京駅に置かれていましたが、平成23年(2011)3月に27年ぶりに戻ってきました。現在、像は駅の北口にあり、駅のもう1つのシンボルとして今後注目されそうです。像の少女のように耳を澄ませ、さざ波に想いを向けてみませんか。

「碧の調べ」一色邦彦 作



COLLECTION 小便小僧のコレクション

(平成23年11月から平成24年9月までの小便小僧の写真)



平成23年11月



平成23年12月



平成24年1月



平成24年2月



平成24年3月



平成24年4月



平成24年5月



平成24年6月



平成24年7月



平成24年8月



平成24年9月

「江戸和竿」は、天明8年(1788)江戸詰めの紀州藩士である、泰地屋東作松本三郎兵衛によって創始されたと言われています。「江戸和竿」とは、江戸で誕生した、天然の竹を主材料として作られる「釣り竿」のことです。

絹糸や漆を使い、矯め・継ぎ・糸巻・塗り等多くの工程を経て、一本の和竿はすべて一人の竿師の手仕事によって仕上げられます。その技術・技法は、多くの竿師によってさらに改良を重ねて磨き上げられ、美術工芸と呼ばれる域にまで達しました。

「江戸和竿」は、昭和59年(1984)に東京都伝統工芸品に指定され、平成3年(1991)に、通商産業省(現経済産業省)の伝統的工芸品に認定されています。

江戸和竿の世界

えどわざお

銀座東作を訪ねて

銀座東作3代目松本和彦さん



漆塗りが美しいタナゴ継ぎ竿。これらが継ぎ合わされて1本の釣り竿となる(銀座東作にて)

「銀座東作」は、天明2年(1782)創業の泰地屋東作の4代目の実弟である故松本国三が大正4年(1915)に分家独立し、現在の店主である松本和彦さんは、その3代目にあたります。銀座東作では、東作一門の和竿を製造・販売するとともに、松本さんはオリジナル商品の開発にも取り組んでいます。

店内には魚種に応じてさまざまな和竿がズラリと並べられており、材料となる竹もたくさんそろっています。ショーケース内の「継ぎ竿」の、その繊細な作りは迫力さえ感じさせます。

近年、釣り竿は丈夫で弾力性がある「カーボンロッド」などの量産品が主流となっていますが、松本さんは、長い伝統によって培われた江戸和竿の天然素材の温かみと手作りの優美さ、使い勝手の良さは、量産品にはない特長であると話します。

実際に和竿を手にとってみると、一本一本感触が異なっており、振ってみるとしなり方も違います。より手に合うものにこだわるのであれば、自分だけの和竿を誂える

こともできます。和竿の寿命は驚くほど長く、手入れを怠らなければ10年20年は十分使え、使い込むほどに独特の味わいが出てくるそうです。釣りファンにとって、ハゼ・シロギス・タナゴ・マブナなど、いわゆる江戸前の釣りには、微妙なアタリを楽しめる和竿を欠かすことはできません。

松本さんは「和竿作り教室」を開催しており、生徒さんには昼休みや仕事帰りに立ち寄る会社員に加え、女性や小学生もいるそうです。

東京都内の河川や海には、釣りを楽しめるスポットがたくさんあります。週末にMy和竿を持って、のんびり釣りをしてみたいくなりました。

〔文・写真 ■ 菊池 弓可〕

●参考文献：「銀座東作」ホームページ「平成の竹竿職人 江戸に生まれた釣り道具の美しさを今に伝える男たち」葛島一美 つり人社 2002「続・平成の竹竿職人 焼き印の顔」葛島一美 つり人社 2007「和洋の釣り道具 東京釣具博物館コレクション」常規保彦編 つり人社 2003



銀座東作
浜松町1-17-8
TEL 03-6459-0216



ハゼ・キス竿からタイ・カワハギ竿まで、種類も豊富な江戸和竿(銀座東作にて)

こころ
芝地区
の風景

浜松町を歩く。～時を刻み続ける昭和初期建築～

浜松町は、JRと羽田空港へ向かう東京モノレールの駅があり、竹芝ふ頭も近く、交通の陸海空へとつながる玄関口の機能をもつ街です。バスターミナルもあるので、例えば、レインボーブリッジを渡ってお台場へと向かう都営バスを利用してみるのも、楽しいかもしれません。

浜松町駅周辺を歩くだけでも、この街の特徴がうかがえます。オフィス街の高層ビルの合間を縫って、旅行バッグを持った団体の観光客や、出張や通勤のスーツ姿のビジネスマンが、たいへん多く行き交います。

世界貿易センタービルを右手に、浜松町駅との間の道を南

へ進んでいくと、金杉橋口の前に思わずたたずんでみたくなる、レトロな気配のビルが見えてきます。

昭和6年(1931)に建てられた「渡邊ビルヂング」です。渡邊ビルヂングは、大林組の設計施工による鉄筋コンクリート造り3階建ての近代建築です。外観の特徴は、スクラッチタイル張りを基調としながら、所々に和風のデザインを取り入れたものです。洋風のビルと和風の青い瓦屋根の組み合わせに、とても興味をひかれました。駅に隣接した通りの角地にあるこちらのビルは、電車やモノレールの車窓からもよく見えます。オフィスビルですが、その昔ながらの雰囲気のあるたたずまいから、テレビドラマなどのロケの依頼も多いそうです。渡邊ビルヂングの了承を得て、屋上に上がらせていただきました。

屋上からの景色は、歴史あるビルのその立地と風格にふさわしく、浜松町の街の様子を凝縮した眺めでした。浜松町の通りは、人や車の流れが多く混雑はしていますが、昔ながらの立ち飲み屋さんや、珈琲屋さんなど、忙しい日常の中でふと立ち寄って、一息入れることのできる憩いの場所がある、人になやさいい街でした。

〔文・写真 ■ 桑原 庸嘉子〕

●参考資料：「港区の歴史的建造物」港区教育委員会 2006「増補 写された港区(芝地区編)」港区教育委員会 2005



渡邊ビルヂング
浜松町2-4-21



芝の
食文化

コーヒー
COFFEE

薫り高くほろ苦い琥珀色の魅力

コーヒーは世界中で飲まれている飲料です。日本の消費量は世界第4位で、1人当たり年間340杯を飲んでいる大量消費国です(全日本コーヒー協会による2010年のデータ)。

これほど飲まれているコーヒーですが、江戸時代にオランダから長崎の出島にもたらされた当初、長崎奉行所に勤務していた大田南畝(狂歌師・偽作者)が文化元年(1804)、随筆「瓊浦文綴」に「紅毛船にてカウヒイというものを勧む、豆を黒く炒りにし、白糖を和したるものなり、焦げくさくて味ふるに堪えず」と、感想を記しているように、日本人は長いことその味になじみませんでした。

明治期には西洋人と接することの多かった政府高官や上流階級、あるいは文化人などごく限られた人たちのステータスでした。

大正期になると徐々にコーヒーをたしなむ人が増え、大正9年(1920)に19歳だった柴田文次がコーヒー文化を広く浸透させたいとの思いから、横浜にコーヒー豆を焙煎して販売する「木村商店」を創業しました。大正13年(1924)に甘いコーヒーシロップを発売すると、庶民の間にすぐに広まり爆発的に売れました。以来「食文化を握る鍵」、「高品質を握る鍵」の意味を込めたブランドマークの鍵は広く知られ、平成元年(1989)、キーコーヒー株式会社に社名変更しました。

高度経済成長が始まるとコーヒーファンは増加の一途をたどり、インスタントコーヒーの輸入自由化により、各家庭に普及します。喫茶店の数もおびただしく増え、ジャズ喫茶、歌声喫茶、名曲喫茶、深夜喫茶などが登場します。1990年代になると



ドリップ式の本格的なコーヒーの需要が高まり、レギュラーコーヒーの種類が増えました。

昭和53年(1978)、キーコーヒーはインドネシア・スラウェシ島の山岳地にある自社農場で幻のコーヒーといわれた「トアルコトラジャ」を復活させ、世界的に最高レベルのコーヒーを栽培します。日本にコーヒー文化を浸透させて育てた功績は大きなものです。

「最近自宅でカフェの雰囲気を出す『うちカフェ』を楽しむ人も増え、高品質のコーヒーを求める志向が高まるなか、飲み方も多様化して、選択肢が多くなっています」と、キーコーヒー広報チームの南雲麻弥子主任は最近のコーヒーの傾向について話します。

コーヒーに含まれているカフェインは眠気を覚まし、ストレスを和らげるリラックス効果があります。一息入れたいときにコーヒーが飲みたくなるのはそのためです。また、肝臓や腎臓の機能を活発にさせ、消化を助け、胃のもたれを解消し、脳の働きを活発にするなど、多くの効能があります。10世紀初めに、アラビアの医師がすでに薬として病氣治療に使っていたことも実証されています。

10月1日は「コーヒーの日」です。キーコーヒー本社は毎年この日に、工場から直送したできたての特別ブレンドコーヒーを提供するチャリティイベントを行っています。



昭和11年(1936)のキーコーヒー(当時は木村コーヒー店)横浜本店

ペーパードリップでのおいしいコーヒーのいれ方

- 1 器具とカップを温める
- 2 コーヒーの粉を人数分(1人分10g)入れ、平らにならす
- 3 湯を粉全体にゆっくりと回しながら注ぎ、20秒間ほど蒸らす
- 4 2回目からは泡が細かく膨らむよう、「の」の字を書くように注ぎ、泡が消えないうちに次の湯を注ぐ。3分間で合計5～6回に分けて注いだらできあがり



キーコーヒーでは、毎月コーヒー教室を開催しています。プロからちょっとしたコツを教わり、よりおいしいコーヒーのいれ方を楽しく学べます。

〔文 ■ 千葉 みな子〕

●写真・資料協力：キーコーヒー株式会社
●参考文献：「にっぽん食探見」長友麻希子著 京都新聞出版センター 2007



キーコーヒー株式会社
西新橋2-34-4
●お客様センター
TEL 0120-192008

今年(2024)は鉄道開業140周年 ～日本の鉄道の歴史を振り返る～



長谷川竹葉 明治10年(1877)作「東京名勝 開化真景 新橋鉄道」(郷土資料館提供)

明治3年(1870)3月25日、イギリス人技師エドモンド・モレル等の指導で日本で初めて鉄道建設が始まりました。様々な困難を克服して、明治5年(1872)5月7日に「品川ー横浜」間が仮開業。その後、「新橋ー品川」間の工事も完了し、9月12日に「鉄道開業式」が盛大に行われました。

開業式のにぎわい

「明治5年9月9日に鉄道開業式の式典挙行」と太政官布告がありました。が、悪天候のため9月12日に順延されました。

新橋駅(のち汐留駅に改称)には万国旗が翻り、紅白の提灯が飾られ、空には花火が打ち上げられました。日比谷練兵場では祝砲も上がりました。

新橋駅での式典終了後、午前10時に明治天皇や政府高官・外交官等を乗せた汽車は、ゆっくりと静かに、横浜駅に向けて出発しました。

当時は高価な乗り物

鉄道の営業運転は、9月13日からです。新橋駅から横浜駅までの距離は29km。駅は「新橋」「品川」「川崎」

「鶴見」「神奈川」「横浜」の6駅。乗車時間は53分。時速約32.8kmでした。運賃は「上等」「中等」「下等」の3段階。例えば、新橋駅から横浜駅まで「下等」の運賃は、37銭5厘。当時のお米が1升(約1.5kg)4銭ですから、お米を約14kg買えるお金が「新橋ー横浜」間の運賃ということになります。

当時の新聞記事振り返って

開業間もない頃、汽車が走り去った後、プラットフォームには、よく履物が残されていました。汽車に乗り込むということは、立派な建物に入るといった感覚だった人が多かったようです。そのため「汽車に乗るときには、履物は脱がないように」と注意喚起した記事がみられます。

明治6年(1873)4月15日付の新

聞では、汽車の中にはトイレがないため、我慢できず窓から用を足して、「罰金10円」を科された人もいたと報じられています。

また、次のような商売の広告も掲載されていました。明治8年(1875)8月27日付で「汽車賃蒲団 新橋ー横浜間 1枚8厘7月25日より営業」と。

読者からのこんな投書もありました。地方からでてきた8人が、新橋駅から汽車に乗りました。「速いな」「景色がいいな」と短い汽車旅に満足して品川駅で下車したところ、駅員から「切符は」と問われたので3人が「捨てた」と答えたら、「鉄道規則で運賃を払え」と言われてしまいました。理不尽と思いつつ運賃を払って駅から出たが、「切符は下車駅で渡す事」という注意書きをすべしと訴えていました。

未来と夢を乗せる鉄道

大量輸送機関としての鉄道は、ますます重要な役割を担うことが期待されています。「未来と夢」を乗せた列車が各地で走り続けています。皆さんもいつも乗車していただける140年の歴史を感じてみませんか。

〔文 ■ 清田 和美〕

文化の秋

さまざまな世代が奏でる音楽の響き

芝小学校シンフォニックブラス

小さな身体で力強い音楽を奏でる！

5・6年生55名で活動している「芝小学校シンフォニックブラス」。週3回の練習は午前7時30分に始まります。登校すると真っ先に音楽室に向かう子どもたち。音楽室の前の廊下にはランドセルが色鮮やかに並びます。シンフォニックブラスは平成7年(1995)に地域の皆さんの応援のもと金管バンドとして活動が始まりました。その後楽器が徐々に増え、平成22年(2010)に木管楽器が加わったのを機会にシンフォニックブラスに改名し、今に至ります。

練習では顧問の塚原三良先生の指導のもと、阿部碩史さんと稲田光さんを中心に「スターウォーズ」「さんぽ」「テキェーラ」などの課題曲に励みます。本番の演奏はすべて暗譜。小さな身体で力強い音色を奏でる姿は、とても凛々しく見えました。チューバ担当の阿部さんは、マーチングには欠かせないスーザフォンも演奏します。



彼の奏でる音は力強く、塚原先生も信頼を置いています。稲田さんはトランペット担当。音楽が好きで、「将来は指揮者になるのが夢」と話してくれました。

テンポの速い曲、リズムを合わせるのが難しい曲も、一生懸命パートをこなしていく子どもたち。「音楽は好き?」と聞くと、「いい音を出す気持ちが良い」「まちの



文化・芸術の秋

文化・芸術の秋です。そこで、芝地区の音楽と美術に関する活動、施設取材しました。

お祭りで演奏するのが好き「皇宮警察音楽隊とのジョイントコンサートがうれしかった」と、目を輝かせて話してくれました。

演奏活動 「区民まつり」「ふれ愛まつりだ、芝地区!」「こども平和まつり」など

御成門中学校吹奏楽部

来年の夏は金賞を目指して！

もともと練習に励む「御成門中学校吹奏楽部」。部員は現在2年生12名と1年生13名の25名。夏の吹奏楽コンクールでは3年生5名とともに銀賞を取りました。放課後になると、各パートに分かれ、2年生が1年生を指導しながら自主練習をします。指導員の先生がくる日は、全パートが音楽室に集まり、真剣なまなざしで指導を仰ぎます。元気があり学年に関係なくフレンドリーな吹奏楽部は、今は冬のアンサンブルコンテストに向けて、古典舞曲風組曲「ザ・シーンⅠ」などの練習に励んでいます。

「来年の夏のコンクールでは絶対に金賞を取りたい」と部長の大澤紗帆理さん。「自分の練習をしながら後輩に指導をすることは難しいけど、やりがいを感じている」と副部長の北村萌奈さん。「将来はまだわからないけれど、高校生になっても音楽は続けていきたい」と、今回インタビューした4人は強い意志を話してくれました。

演奏活動 「東京都中学校アンサンブルコンテスト」「東京都中学校吹奏楽コンクール」「こども平和まつり」など



ザ・ベンチャーズのナンバーを演奏してくれた「るーず・びーと」

ブ」と称し、メンバーの選層を祝いました。「だれか1人でも欠けたら解散。それまでは細く長くやっていきたい」と語るメンバーの笑顔は素敵でした。

※今回は残念ながら都合がつかずお話を伺えませんが、メンバーにはパーカッション担当の斎藤誠二さんがいます。

演奏活動 「新橋こいち祭」など

今回、さまざまな世代の音楽活動の取材を通じて感じたことは、音楽って演奏する人も聴く人も言葉を超えた楽しいものだということです。そんな音楽のある芝地区は、子どもも大人も楽しく笑顔で過ごすことができるまちなのです。

〔文・写真 ■ 早川 由紀〕

芸術の秋

大倉喜八郎の意志を受け継ぎ、日本美術の継承に取り組む

おおくらしゅうこかん

大倉集古館



国の登録有形文化財となっている大倉集古館

江戸で商才を発揮



創業者 大倉喜八郎

創立者の大倉喜八郎(1837~1928)は、新潟に生まれ、数え年18歳で江戸の鯉節店に奉公に入ります。その後独立し、乾物屋に続き大倉鉄砲店を開業。明治維新後には貿易業、建設業を始め、化学、製鉄、繊維、食品と幅広い業種へ進出、巨万の富を築きます。政財界の重鎮や著名人とも広く親しく交流しました。

要人とのつながりが、更なる事業発展を生み、成功へと躍進したのでしょう。

私財で開館した、日本初の美術館

喜八郎は事業を拓げるだけでなく、得た富を文化、慈善事業にも還元したいという強い思いがありました。明治維新以後の廃仏毀釈で、日本美術の海外流出や破壊が起きていましたが、それを食い止めようと自ら蒐集を始めます。長年かけて集めた日本美術の数々を、一般の方にも見てもらいたいと土地、建物を寄付し、蒐集品の公開を始めました。こうして大正6年(1917)に、日本初の私立美術館、財団法人大倉集古館が誕生しました。

関東大震災に見舞われて

大正12年(1923)に起きた関東大震災では、国宝「普賢菩薩騎象像」を始めとする美術品運び出し、守り抜いたそうです。当時の建物・所蔵品の一部を焼失してしまいましたが、幸い倉庫は難を逃れ、残された美術品を元に、建築家の伊東忠太の設計による耐震耐火の陳列館を建設し、昭和3年(1928)に再開しました。

館の運営が息子の大倉喜七郎(1882~1963)に引き継がれた後も、所蔵品は拡充されていきました。

喜七郎は、昭和5年(1930)に画家の横山大観らとローマで大規模な日本美術展覧会を企画開催し、日本文化を広く海外へと伝えました。



昭和3年(1928)再建時の大倉集古館

国宝を含む所蔵品の数々

大倉集古館は現在、国宝3件、重要文化財13件を含む約2,500件の美術・工芸品と約1,000部の漢籍(中国の古典籍)を所蔵しています。所蔵品の種類は幅広く、日本の絵画・工芸品等から中国、朝鮮、インドなど東洋の美術品まで多岐に渡ります。国宝の「普賢菩薩騎象像」は常設展示されています。一度、ご覧になってみてはいかがでしょうか。

文化を継承していくために

大倉集古館は、5年後の平成29年(2017)に創立100年を迎えます。スタッフの方々は、年月を経た膨大な収蔵品をいかに維持・管理していくかを常に考えながら公開運営し、その継承に取り組まれているそうです。現在、大倉集古館では日印国交樹立60周年を記

念した「インドへの道ー美術が繋いだ日本と印度ー」と題する展覧会を12月16日(日)まで開催しています。展示されている仏像、神像、細密画などに興味をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

文化、芸術の秋に、仏教発祥の地インドの美術品に触れてみるのも面白いかもしれませんね。

(敬称略)

●写真提供：大倉集古館

〔文 ■ 藤原 敦子〕



国宝「普賢菩薩騎象像」(平安時代)



大倉集古館
虎ノ門2-10-3
TEL 03-3583-0781

「舟偏」の漢字の敷石

～竹芝ふ頭2階のプロムナードデッキにて～

竹芝ふ頭の2階のプロムナードデッキからは、北側に東京スカイツリーや勝鬨橋、南側にはレインボーブリッジやお台場の街並みが一望でき、また、間近に見る大きな客船や貨物船の迫力に目を奪われます。そんな中、ふと足元に目を向けると、ふ頭ならではの舟偏の漢字の敷石があります。

艦・艇・舷・舩…
これらの漢字の読み方、
意味を調べてみると…



【参考】「大辞泉」(小学館)



船

【音】セン
【訓】ふね・ふな
【意味】ふね。



艇

【音】テイ
【訓】かじ
【意味】細長い小舟。



舵

【音】ダ・タ
【訓】かじ
【意味】船の進行方向を定める装置。



舟

【音】シュウ
【訓】ふね・ふな
【意味】小さいふね。



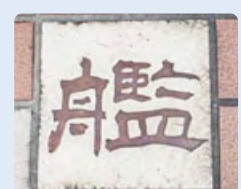
舶

【音】ハク
【訓】—
【意味】航海用の大船。大きな船。



舩

【音】ギ
【訓】ふなよそ(い)
【意味】船出の用意をする。舩装する。



艦

【音】カン
【訓】—
【意味】戦艦用の船。



舷

【音】ゲン
【訓】—
【意味】船の両側面。ふなべり。ふなばた。



航

【音】コウ
【訓】—
【意味】船で水上をわたる。飛行機で空を行く。

敷石になっている舟偏の漢字は以上ですが、舟偏の漢字はまだあります。

竹芝ふ頭の漢字の敷石をととして、漢字に興味を持つ子どもたちが増えるといいですね。 (文・写真 ■ 日沖 剛)



竹芝ふ頭公園
海岸1丁目



大使館で
教えてもらった
レシピ

Ackee
and
Saltfish



アキー・アンド・ソルトフィッシュ

ジャマイカの国民的な定番料理

耳慣れない名前の料理ですが、アキー(※参照)と塩漬けのタラを炒めたもので、ジャマイカではポピュラーな一品です。アキーはジャマイカの人にとって身近な果物で、アボカドと豆腐を足して2で割ったような食感です。塩加減はタラの塩分で調節します。タラのうまみが強いので、初めて食べても美味しく感じる人が多いようです。付けあわせはキュウリやパプリカなど新鮮な野菜でいろりを添えます。

今回大使館で用意していただいたアキー・アンド・ソルトフィッシュには、フェスティバルと呼ばれる揚げパン(写真左上)が添えられていました。 (文・写真 ■ 作田 宗子)

【材 料】(4人分)

アキー(缶詰)	1缶	タイム	1/2束
塩漬けのタラ	80g	こしょう	適量
玉ねぎ	1個	ガーリックパウダー	適量
青唐辛子	1/3個	ココナッツオイル(サラダ油で代用可)	適量

【作り方】

下準備として、アキーを缶から取り出したら塩分を飛ばすためにお湯をかけます。塩漬けのタラも沸騰したお湯の中に入れて、塩分をのぞきます。タラの身はほくほくしておきます。

- 1 熱したフライパンにココナッツオイルを入れて、細かく切った玉ねぎ・青唐辛子・タイム・こしょうを入れて中火で炒めます。
- 2 タラを加えて炒め、火を弱めます。
- 3 アキーを入れ、形がくずれないように軽く炒めます。
- 4 ガーリックパウダーを振りかけ、なじませたらできあがり。



アキーという果物は味がなく、塩漬けしたタラや豚肉など、味や香りのある食材と調理することが多いです。ジャマイカではイギリスの植民地だった時代からタラと一緒に食されてきました。朝ご飯として定番だったこのアキー・アンド・ソルトフィッシュは、今では海外移住しているジャマイカ人や観光客によって海外に広まり、昼食や夕食のメニューとしても知られるようになりました。ジャマイカブルーマウンテンコービーやレッドストライプビールとの相性も抜群です!

料理の解説をしてくださったのはジャマイカ大使館一等書記官のタミキア・アンダーソンさん

芝でこそ：芝で子育てしたくなるまちづくりプロジェクト

まちと人のつながりの中で、子どもという入り口から芝地区を眺め、子どもが安心して遊び回れるまちを自分たちで考え、ともにつこうという活動です。

今後の活動

12月22日(土)午後 しばこうえんあそび隊!

小さな子どもから大人までだれでもようこそ!「緑側のような公園」を一緒につくりませんか? 遊び道具の貸し出し、虫探し、鬼ごっこ、ストレッチなどをして野外で過ごす時間を満喫しましょう。区立芝公園の芝生広場にて。



芝の地域力再発見事業拠点「芝の家」
芝3-26-10 TEL 03-3453-0474
●月・火・木曜 午前11時～午後4時開室
水・金・土曜 午後1時～6時開室
●ホームページ <http://www.shibanoie.net/>

地域の交流を生み出す仕掛け

しほのいえ
「芝の家」
から…

芝の家の大きなガラス戸には縁側があります。暑過ぎたり寒過ぎたりしない限り、この縁側には人の姿が絶えません。買い物の行き帰りの途中で休憩していくお年寄り、物々交換ボックスをのぞいていくサラリーマン、下校途中の小学生など…たくさんの人たちの生活に溶け込み、自然な交流を生み出している縁側。まちのあちこちにもっと縁側があれば素敵だなあと思わずにはいられません。というのも、縁側があると、イベントなど特別な催しに参加しなくても、日常の中に人と人との交流が生まれます。また、多くの人の目があることで地域の安全安心にもつながります。

路地での交流の典型といえは、井戸端会議ですね。江戸時代、長屋の共同井戸に主婦が集まっ

たことが語源とされる井戸端会議は、情報交換や人がつながる場として機能していたようです。現代は、井戸に通うことが生活を営む上で欠かせなかった時代とは違い、井戸端を見かけることは難しくなっています。だからこそ、道行く人がちよつと息抜きできる縁側がたくさんあればいいなと思うのです。とはいえ、各個人宅に縁側を設けるというのは、現代の、特に都会の生活ではあまり現実的ではありません。

そこで芝の家では、縁側や井戸端に代わるような、まちなかに人の交流を生み出す仕掛けをしていきたいと思っています。今回ご紹介する地域活動は、「コミュニティ菜園プロジェクト」と「芝でこそ：芝で子育てしたくなるまちづくりプロジェクト」です。

芝の家発! 地域活動紹介

コミュニティ菜園プロジェクト



今後の活動

11月25日(日)午前10時～
チューリップの球根植え

植木鉢やプランターに花の種や野菜の苗を植え、世代を超えた地域の人たちみんなでお話しします。屋外で水やりや収穫をしていると、自然と人の輪が生まれます。



芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。



1～20: 旧町名由来の施設の設置場所
※3は現在、欠番となっています。

toita women's college

芝次郎のともだち2



どんぐりと
てんぐり



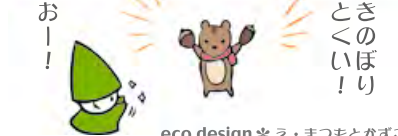
うさぎさん



てんぐり



あ



おー!

eco design 水元・まつもとがすこ

いわき市と芝地区の子どもたちの交流

芝地区総合支所では、東日本大震災の復興支援のひとつとして、福島県いわき市と芝地区の子どもたちがスポーツをととして交流を深める事業を行いました。

9月15日、秩父宮ラグビー場（北青山2丁目）を訪れた子どもたちは、普段は入ることができない選手ロッカー室やインタビュー会場、スタジアムのピッチを見学しました。さらに選手と一緒にラグビーを体験した後は、ジャパンラグビートップリーグの試合を観戦。選手のプレーに大きな声で声援を送るなどラグビーざんまいの1日を過ごしました。

翌16日は9月にオープンしたばかりの神明いきいきプラザの体育館で、ドッジボールやリレーなどのゲームを行い、小学生も中学生も思いっきり運動をして楽しみました。

東日本大震災でいわき市は、ラグビー練習場として完成したばかりのグラウンドが津波におそわれるなどの被害がありました。それでも、1日も早く練習をしたいという強い思いで地域のひとと一緒に、頑張つてがれきを撤去したそうです。

いわき市の子どもたちを取り巻く環境はまだまだ厳しい状況ですが、芝地区で過ごした2日間がよい思い出になったという感想が届きました。

みんなで
記念撮影



ラグビー教室の風景



都税についてのお知らせ

バリアフリー改修をした住宅にかかる 固定資産税が減額されます

主税局イメージキャラクター
タックス・タクちゃん



《減額対象となる住宅》

平成19年1月1日以前からある住宅で、65歳以上の方が居住する住宅について、平成19年4月1日から平成25年3月31日までの間に、人の居住の用に供する部分（賃貸部分を除く）において、一定の要件を満たすバリアフリー改修工事を行った場合

《減額の年度と額》

改修工事完了年の翌年度分に限り、居住部分で、住宅1戸当たり100㎡の床面積相当分までの固定資産税額の3分の1が減額されます（賃貸部分は、減額の対象にはなりません）。

減額を受けるためには、バリアフリー改修工事完了後3か月以内に申告が必要です。詳しくは、該当住宅が所在する区にある都税事務所へお問い合わせください。なお、23区外でバリアフリー改修をした場合には、当該住宅が所在する市町村へお問い合わせください。

●問い合わせ●

港都税事務所
TEL 03-5549-3800

読者の皆様のご意見を募集しています！

本誌の感想以外にもまちの楽しい話題や身近な取組み、身の回りの知りたいことなどをお聞かせください。より魅力的な誌面にするための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただいた方に「旧町名風呂敷」をプレゼント。ご住所・氏名・年齢・職業・ご意見をご記入のうえお送りください。

●ファックスの場合…FAX 03-3578-3180

●郵送の場合…〒105-8511 港区芝公園1-5-25
港区芝地区総合支所協働推進課
「芝地区地域情報誌」編集室宛

この風呂敷を
プレゼント
します！



旧町名風呂敷

★12月21日(金)締め切り★

芝地区地域事業のお知らせ

芝地区 高齢者買い物支援

出張販売 虎ノ門マーケット

「近所で買い物がしたいけどお店が近くにない」
芝地区総合支所がご要望にお応えします！

虎ノ門いきいきプラザで毎月第2・4土曜日
正午から午後2時まで「出張販売」しています。

「食料品、雑貨、薬」などを展示して
皆さんのお越しをお待ちしています。

詳しくは、下記の問い合わせまでご連絡ください。

《実施区域》

虎ノ門、愛宕、西新橋、新橋

《対象》

65歳以上のひとり暮らし高齢者・高齢者のみの世帯

《内容》

野菜や米などを中心とした商品の注文を受け付け、区内商店街に発注。
虎ノ門いきいきプラザで商品を受け渡し。
希望者には自宅まで購入品と一緒に運ぶ同行支援も承ります。

《費用》

■商品の注文 : 1回 50円

■商品の運搬・同行: 1回 50円

※商品代金と費用は受け渡し時に実費をお支払いいただけます。

※お支払いには区内共通商品券もご使用できます。

《場所》

虎ノ門いきいきプラザ
虎ノ門1-21-10



●申し込み・問い合わせ

芝地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当 TEL 03-3578-3104



らくらくウォーキング教室 参加者募集

ポール(ストック)を使って、負担が軽く、
運動効果の高いウォーキングをしませんか。

芝地区の歴史や文化のスポットを巡るので、
新たな魅力が発見できます。

■ 日 程	12月5日～平成25年2月9日 全8回 毎週水曜日 8回目のみ土曜
■ 時 間	午前10時～正午
■ 開催場所	港区芝地区内 ☆神明いきいきプラザが集合場所です☆
■ 対 象	港区在住の65歳以上の人 (集合場所までご自身でお越しいただける人に限ります)
■ 定 員	15名(申込み多数の場合は、抽選となります)
■ 参 加 費	無料
■ 申込締切日	11月26日(月)



前回のらくらくウォーキング教室
10月実施

●申し込み・問い合わせ

芝地区総合支所区民課保健福祉係 TEL 03-3578-3161

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。

天津由理香／菊池弓可／清田和美／桑原庸嘉子／坂本紘一／作田宗子／
佐藤剛志／柴崎郁子／柴崎賢一／千葉みな子／張簡光輝／早川由紀／日尾佳世／
日沖剛／藤原敦子／町田明夫／森明（五十音順 敬称略）

★今後の発行スケジュールは次の通りです。

H25.2.20発行(第26号)、H25.5.20発行(第27号)、H25.8.20発行(第28号)、
H25.11.20発行(第29号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設等で配布しています。

港区芝地区総合支所協働推進課

所在地：〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)

TEL：03-3578-3193 FAX：03-3578-3180

ホームページ：http://www.city.minato.tokyo.jp/